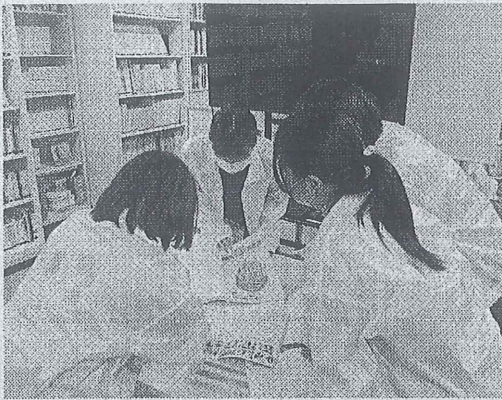


# 学生と共にニューズレターを発行

愛知淑徳大学「ステレオリム」女性学研究所

愛知淑徳大学(島田修三学長)のジェンダー・女性学研究所(坂田陽子所長)に「ステレオリム」が発足した。

昨年10月、コロナ禍で学生が出勤停止のさなか、学生の主体的な学びをサポートする目的で、同研究所のニューズレターの編集やジェンダーに関する研究を一緒に行う学生の募集を開始。研究所は1995年に開所されて以来、教員の研究の場であり、学生へはジェンダー関連科目の提供を行い、所定単位の取得者には「ジェンダー・ダイバーシティ」の認定を行ってきた。つまり学生と共に活動する体制を整えたのは初めてであり応募者がいるか不安の募る中、即日10人以上が応募、そのうち8人と活動を共にすることになった。オンラインを通じてのやり取りは思った以上にスムーズに行われた。「さすが今どきの若者」と教職員は感心したとい



イメージキャラクター「にじもじゃ」が描かれたユニフォームを着て活動する学生たち

う。皆で相談し、「固定概念を取り払おう」という意味を込めた「ステレオリム」課」と命名、同大ヒジネス学部3年林桃歌さんはキャッチフレーズの「性別、燃やせ」やキャラクター「にじもじゃ」を考案した。

まず取り掛かったのは、ニューズレターの編集。創造表現学部4年の立松里菜さん、前畑朱里さんを中心にコンセプトを考えた。交流文化学部4年の川端菜月さん、文学部4年の北原優奈さんは研究所の情報発信の方法を話し合う座談会を企画、人間情報学部2年の羽生勇太さんは研究所取材、福祉貢献学部2年の柴田莉穂さんは研究所のパンフレットを一新させた。これだけ異学部が集まると煩雑になると思い、化学反応を起こし、ニューズレターは今までにない、ジェンダーに関する本音の詰まった冊子に生まれ変わった。新たな学生の学び方を提案するとともに、同大の理念である「違いを共に

生きる」を具現化する学びの場となっている。現在は、中学生や高校生からジェンダーに関して大学生と討論したい、と、ステレオリム課に仕事が増え込んでいるという。今後の活躍が期待される。